

« SOUPÇONS D'ASPECT » ET PARABOLES

Nouvelles recherches sur Odilon Redon et Paul Gauguin

Conférence de
DARIO GAMBONI

Professeur d'histoire de l'art de la période contemporaine, Université de Genève

Organisée par THE UNIVERSITY OF TOKYO CENTER FOR PHILOSOPHY (UTCP)

東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)
新中期教育プログラム「イメージ研究の再構築」イベント

ダリオ・ガンボニー(ジュネーブ大学教授)講演会

疑念と寓意 ルドンとゴーギャンに関する新視点

隣接諸領域の成果を積極的に取り入れながらも、あくまで作品と史料に密着した思考を通じて、イメージ分析に新境地を拓く気鋭の美術史家ダリオ・ガンボニー氏。UTCPでは来る7月に氏を招聘し、最新の研究成果をお話しいたします。ともに近代フランスを代表する二人の画家オディロン・ルドン(1840-1916)とポール・ゴーギャン(1848-1903)。彼らのイメージがはらむ多義性、曖昧性、不確定性に注目しながら、19-20世紀の転換期に作者/作品/鑑賞者の三者が織りなすコミュニケーション関係がどのような変容をこうむったかを解き明かしていきます。多数のご来場をお待ちしています。

※この講演会は本年秋に発足するUTCPの新中期教育プログラム「イメージ研究の再構築」のイベントとして行われます。

ダリオ・ガンボニー Dario Gamboni

1954年イヴェルドン(スイス)生まれ。ローザンヌとパリで美術史を修め、フランス、アメリカ、オランダで教鞭をとったのち、2004年より現職。

著書に *La Plume et le pinceau: Odilon Redon et la littérature* (1989), *The Destruction of Art: Iconoclasm and Vandalism since the French Revolution* (1997), *Potential Images: Ambiguity and Indeterminacy in Modern Art* (2002) (『潜在的イメージ モダン・アートの曖昧性と不確定性』藤原貞朗訳、三元社、2007年) など多数。

2009年7月12日(日)

16:00-18:00 東京大学駒場キャンパス18号館ホール

入場無料 事前登録不要 使用言語: フランス語(日本語同時通訳付)

お問い合わせ: image.studies@utcp.c.u-tokyo.ac.jp

後援: 日仏美術学会

Dimanche 12 juillet 2009

16h00 - 18h00

Auditorium, Bâtiment 18, Campus Komaba, Université de Tokyo
3-8-1, Komaba, Meguro-ku, Tokyo

Entrée libre, avec traduction simultanée français-japonais

Contact: image.studies@utcp.c.u-tokyo.ac.jp

Avec le soutien de la SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE D'ART ET D'ARCHÉOLOGIE